

## 外務大臣賞

### 「日本の田舎に学んだもの」

高校の時に日本へ留学してから、日本が自分の居場所と感じ、大学院、就職、そして日本人との結婚に導かれました。子育てをしながらの生活を通して、独身の時とは全く別の日本を見ることができて、とても興味深いです。

山崎ランサム どりあ

Ms. Doria Yamazaki-Ransom

(アメリカ・主婦)

私が住んでいる愛知県新城市には、日本棚田百選の一つ、四谷の千枚田があります。今世界中で注目を浴びている「里山」の一つです。実際は千枚以上の田んぼがあり、それらが山の斜面全体に広がっているのは、息をのむような美しい風景です。

心の安らぎを得るために、私も時々千枚田を訪れます。そんなある時のことです。

一人のおじさんが、釣り竿だけを持ってスクーターから降りました。何かを捕まえて、釣り針に付けて、田んぼのそばを流れる用水路で魚を釣っています。声をかけてみたところ、なんと、蜂の子を取るために魚を釣っていたのです。魚の肉で団子を作って、軽い綿の目印をつけます。その団子を取りに来た蜂が巣に持ち帰るのを、目印をもとに追いかけて行きます。巣を見つけると、その中から蜂の子が採れるわけです。釣リエサは稲の穂についていたバッタでした。実際、帰り道にはバッタの足と羽があちこちに落ちていました。一見残酷にも見えますが、これが私の目には美しく映っていました。なぜなら、すべてはこの棚田を舞台にした自然のサイクルの中のできごとだからです。人間から稲、稲からバッタ、バッタから魚、魚から蜂、そして蜂の子から人間へと命が受け継がれています。代々伝わってきた知恵を用いて、自然の営みを無駄なく最大限に生かした美しい光景でした。

私がこのように感動ができるようになったのも、5年ほど前に日本の庭付き一軒家に住むようになってからです。家庭菜園を作り、初めて野菜を育ててみました。それを通して、人間がいかに季節と共に生きていくようにできているかということ学びました。アメリカでは日本以上に、スーパーに行ったらいつでもなん何でも買えますので、「旬」の概念はないに等しいです。ほとんどの人は、りんごとかぼちゃが秋にできるということぐらいしかわかっていません。しかし、日本の暑い夏には、庭に生えているキュウリやトマトが無性に食べたくなります。体がちょうど旬のものを欲しがります。季節の変化に体を合わせようとする、自然の恵みの機能です。また、寒い時に食べる大根や冬瓜は、なんと体が温まることでしょう！

日本人は自然や季節を大切にすることというのは、日本語を習い始める前から聞いていました。アメリカ人の大半は、春にはチューリップが咲き、秋には紅葉があるということぐらいしかわかっていません。けれども、庭の手入れをし、季節の移り変わりや自然の小さな変化に注意を払うようになってからは、日本の様々な植物の名前とその花がいつ咲くかがわかるようになりました。また、「今年は梅が不作だ」、「今年は菖蒲が咲くのが早い」など、命のサイクルの中で、いつ、何がおこるべきかということも、やっと読み取れるようになってきました。

田舎で生活するようになって、「三寒四温」や「木の芽時」など、暦や天気、健康について昔から伝わってきたことわざや言いつたえが驚くほど正確であることが初めて実感できました。何百年も自然を観察する中から生みだされてきた知恵を軽んじることはできません。いや、それらの知恵を忘れ、もしくは気にも留めずに過ごしている現代人の方が愚かなのかもしれない。

今、日本文化についての教育、そして「食育」という、2つの教育方針が広く叫ばれています。この2つの主題を一緒に教えることができるのではないのでしょうか。伝統行事や芸能だけではなく、代々伝わってきた大地についての知恵、「里山」の有益さ、日本食や健康についての知識、そして季節と共に体や精神状態を管理することの大切さ……これらもすべて日本の文化ではないのでしょうか。

少し前までは、「田舎」は「ダサイもの」というイメージがありました。けれども、今はアイターンやエコツーリズムなどに見られるように、田舎の良さが再発見されてきています。脱原発、石油依存からの脱却が求められているこの時代にこそ、日本の田舎が世界に伝えることができることは山ほどあると思います。田舎の「自然と共に生きる知恵」の素晴らしさをまず日本人に、そして世界の国々に知っていただくことが、国の将来、地球の未来のための大きな第一歩になるのではないのでしょうか。日本の田舎は恥ずべきものではなく、誇るべきもの、いや、なくてはならない、貴重な宝物です。日本の田舎こそ国宝であり、農家こそが無形文化財です。一人でも多くの人がこのことに目覚めることを心より願ってやみません。そして、自然のサイクルの中に生きることの大切さを教えてくれた日本の田舎に感謝し続けたいと思っています。